

時 報

◇草地技術研修会

真庭郡川上村で開催さる

この数年来、農業経営の改善と向上のための施策の1つとして、畜産振興がクローズアップされ、特に酪農と肉畜の振興が重要視されてきている。しかしそれにはこれらの家畜の飼養基盤である草地の造成が必要であり、県で樹立しているグリーンプラン（草資源大增産計画）の達成のためにも、指導者の草地造成改良の技術向上が大切であるとして、去る9月1日から3日間まで、真庭郡川上村の蒜山キャンプセンターを中心に、現地で草地の技術研修会が開催された。

これは草の週間中の行事の1つで、県関係職員のほか、蒜山地域の市町村、農協の技術員40名が参加し、次の日程で蒜山高原の雄大な環境の中で有意義な研修が行われた。

第1日 川上中学校において

アメリカの畜産と草地について

同右スライド 畜産課長

懇談会 キャンプセンター

第2日 川上中学校において

蒜山地区の酪農と草地造成について

酪農試験場蒜山分場 岸川技師

飼料作物の栽培、特に増収の要因

1、2について

酪農試験場 三秋義肢

昭和35年度の草地行政について

畜産課草地係 中島係長

牧野の管理について

農業改良課 栗山専技

草地農業について

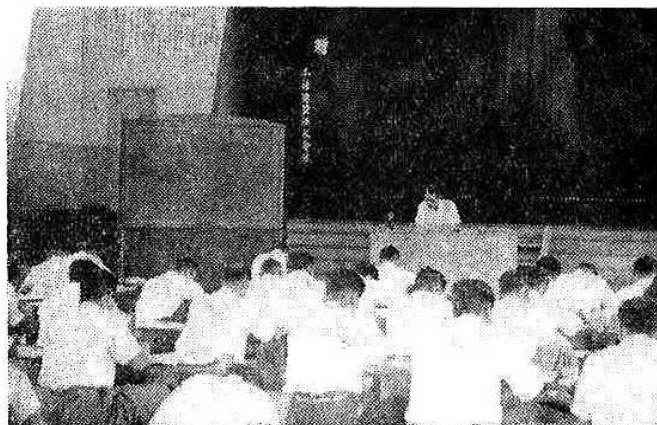
農業試験場大佐分場 石橋分場長

第3日 湯原町二川村において

酪農経営及び草地改良地の現地見学

◇県有種雄山羊、種雄めん羊 優良種を導入貸付けを終る

県畜産課では、昭和35年度分として、去る8



川上学校における研修

月15日、群馬県から購買の種雄山羊（当才～2才）11頭、種雄めん羊1頭（2才）を、次の表のとおりめん・山羊生産地域に貸付した。

現在県下には約16,000頭の山羊がいるが経営規模の小さい農家や、和牛飼育農家などでは、山羊乳がまだまだ手軽な動物性蛋白質資源として、食生活改善に大きな役割をはたしており、さらに質的にも優秀なものに改良、増殖することが必要なので貸付を行ったもので、畜産課担当係では、今秋からこれらの優秀山羊を人工授精などによって、極力効果的に利用するように望んでいる。

◇第16回 岡山県畜産 共進会の開催予定

毎年秋に畜産の祭典として行われる県畜産共進会は、今年は和牛と乳牛を合わせて10月10日から13日

昭和35年度種雄、めん、山羊貸付状況

種別	耳標番号	名 号	生年月日	産地	貸付期間	管 理 人
山 羊	4ホB9	神 原	34.4.2	群馬県	自35.8.16 至38.8.15	総社市南国府 矢吹信太郎
	5Bホ29	金 良 2	35.2.14	〃	〃	笠岡市西大島 阿福 郁郎
	5ホP3	千代岳	35.2.28	〃	〃	小田郡美星町 渡辺 祐吉
	5ホA15	愛 秀	35.2.20	〃	〃	真庭郡勝山町 大塚 鹿平
	5ホC82	神 崖 3	35.3.20	〃	〃	〃 久世町 福井 一郎
	5ホA17	泉 竜	35.1.30	〃	〃	苫田郡富 村 難波 賀寿
	5ホC83	神 崖 4	35.3.20	〃	〃	〃 奥津町 森田 玉光
	5ホA18	辻 雄 1	35.1.28	〃	〃	勝田郡勝北町 松尾 覚
	5ホA24	群 関 1	35.3.30	〃	〃	久米郡中央町 芳賀 道徳
	5ホA23	赤城竜仙	35.3.8	〃	〃	〃 久米町 佐々木 敏一
4ホA35	勝 俊 1	34.4.13	〃	〃	新見市草 間 草間家 畜保健衛生所	
めん羊	(仔)クン 34-225 (本) 864	(本) 864	34.1.31	〃	〃	笠岡市大島中 松葉 四郎

岡山畜産便り 1960.09

までの4日間、和気郡和気町で行われることになった。

主催は岡山県で、県畜産農協連、県酪農協連ほかの団体後援で地元和気、赤磐両群の協賛を得て開催されることになっているが、最近の著しい畜産の発展や、畜産生産物の好景気の影響もあって盛会が予想されている。

出品資格は、和種種牛は県内生産のもので昭和34年6月10日までに生まれた登録牛または登記牛で、父母、祖父母ともに登録牛であるもの、雄にあっては岡山県優良種雄牛生産育成要領による認証書を有するもの。

ホルスタイン種牛は、昭和34年6月10日までに生まれた登録牛または種系であるもの。となっており、出品者は岡山県内に居住し、農業または畜産業に従事する者。または畜産に関係ある団体とされている。

また開催時間は、毎日午前8時から午後5時まで、審査は10月10日から12日までの3日間に行われることになっており、優秀牛には農林大臣賞、知事賞、各種団体からの賞状、賞品が授与される。

地域別の出品割当は次のとおりである。

岡山県畜産共進会出品家畜割当表
和牛の部

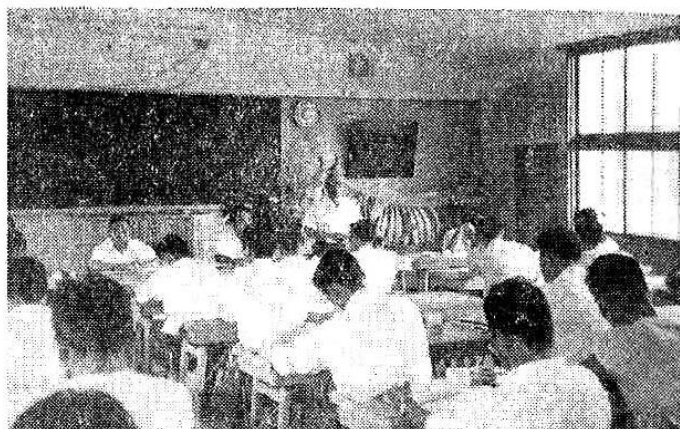
計	久米	英田	勝田	吉田	真庭	阿哲	高梁	吉備	井原	笠岡	小田	浅井	都島	児島	和気	赤磐	御津	畜連名
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	昭和三十五年
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	計

岡山県畜産共進会出品割当表
乳牛の部

計	高梁	赤磐	同組合	和気畜産販売農業協	吉備郡畜連	水島	倉敷	美作	同組合	岡山県北部酪農業協	業協同組合	浅口酪農加工販売農	日里	新山農業協同組合	山陽	平津	児島	旭東酪農業協同組合	組名
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	昭和三十五年
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	計

◇新見市千屋で開催 和牛振興に関する協議研修会

最近の肉畜の需要の増大に対して、県畜産課ではさきに岡山県和牛振興対策要綱を定めて、和牛の生産から流通過程にいたるまでの各部門に振興対策を講ずることになっているが、和牛飼育頭数、生産頭数の減少に対してはさらに早急に具体的な施策を進める必要があるため、去る8月29日、30日の両日新見



和牛試場験講堂における研修

市千屋の県和牛試験場で、農林事務所、関係市町村および県、群畜連などの和牛主任技術者50名を集めて、和牛振興の協議研修会が開催された。

この協議会では、和牛生産県としての和牛生産頭数の増加を図ることが第1に重要な点であるとして、生産技術、指導組織、人工授精等の問題点の改善について対策を協議したのをはじめ、

- 1 生産基地の育成と系統牛の造成
- 2 肥育事業の振興
- 3 経営改善による生産性の向上
- 4 和牛取引の近代化
- 5 指導組織強化

などについて討議研究を行った。

さらに引続いて次のとおり2日間にわたって研修が行われ、新しい和牛の経営技術について受講した。

日程

第1日 29日

16.00~17.00 (研修)

和牛経営のあり方

岡山畜産便り 1960.09

(講師 改良課 田中専技)

17.00～17.30 (説明)

和牛生産費調査について (畜産課)

17.30～20.00 場内視察 懇談協議

第2日 30日

8.00～9.30 (研修)

技術指導上の重点事項

(講師 和牛試験場 林場長)

9.30～10.30 (説明)

グリーンプランについて (畜産課)

10.30～12.30 (研修)

草地農業と和牛

(講師 農試大佐分場 石橋分場長)

12.30 閉会

肉用素畜導入事業の 昭和35年度割当きまる

(別表) 農林事務所別割当

農 林 別	割当頭数
岡 山	140
和 気	80
笠 岡	80
高 梁	100
新 見	20
津 山	140
美 作	120
(岡山県畜連)	120
合 計	800

かねて県から農林省へ申請を行っていた昭和35年と肉用素畜導入について去る8月13日付で畜産局長から、岡山県分の割当頭数として800頭配分の内示があったので、県畜産課で

は別表のように各農林事務所別の割当を行った。

この事業は、農業協同組合または農業協同組合連合会が、集団的に肉用素畜(牛、豚)を導入して肉畜の共同出荷を行う場合に、国からの補助によって、知事が素畜の導入に要した資金の額の1,000分の25(金利)に相当する額の補助を行うもので、農協または連合会が購入した素畜は農家に肥育管理を委託し、肥育が完成したものの販売は、農協による共同出荷を行うことになっている。

この預託頭数の標準は、組合の場合には毎年度牛では20頭以上、連合会の場合は牛は40頭以上、豚では300頭以上、豚は600頭以上の事業を行うことが必要とされており、実施組合員に対する預託の標準は、牛は2頭以内、豚は6頭以内となっている。

なお、この事業の実施は近く決定される「岡山県肉用素畜導入事業実施要綱」、および「昭和35年度肉用素畜導入事業実施要綱」にもとづいて行われる。

また県では、この事業の実施希望が多いようであるので、農林省に対してさらに現在200頭の追加割当を申請中である。